

令和元年度第2回利用しやすい施設づくり部会 視察概要

出席委員 6名

案 件 北野白梅町駅（嵐電）の实地視察

事業担当者 吉村建設工業

委員からの意見

1 バス停について

- ・停留所のスペースと乗降口との幅が狭い。車いす使用者は、スロープを敷いて乗るために、少し下がる必要がある。
- ・停留場には、バスの接近が分かるシステムは設置されるのだろうか。
- ・車いす使用者が並んでいるにもかかわらず、歩ける方に抜かされそうな導線である。車両が満員になり、その時にはもう乗れないことがある。
- ・バス停はマウントが上がっているため、スムーズにスロープが利用できる。

京都市⇒いずれの意見も交通局に伝える。

2 トイレについて

- ・多機能トイレは、幅・奥行きが広く、車いす使用者にとっても転回しやすく、とても使いやすい。
- ・大人もおむつ替えが必要などトイレで介助が必要な方がおられる。大人も使用できる介助用ベッドが設置されていることも、とてもよい。
- ・多機能トイレが2つ設置されている。手すりが右側に付いているものと左側に付いているものと対称になっていて、片麻痺の方も使いやすいものとなっている。
- ・前回の事前審査時においてオストメイトが図面では確認できなかったが、今回の改修工事で多機能トイレの2つともに設置されていてよかった。
- ・身体の性と心の性が一致しないことによる身体の性への違和感などを理由として、男女別のトイレを利用しづらいと感じ、性別を問わない男女共用の多機能トイレを利用したい方にとっても、使いやすいのではないか。
- ・トイレの案内が、駅の乗降口の前にしかない。バスから降りて、駅のホーム横の階段を使う方には、トイレの位置が分かりづらい。

3 ホームについて

- ・車いす使用者にとっては、ホームの幅が少し狭く感じる。大勢の人と車いすですれ違ったり、交差する際に恐怖を感じる。
- ・また、車いすの乗降をしやすくするため、照明をもう少し明るくしたり、足元をしっかりと照らすなどし、見えやすくする工夫が必要である。

4 その他

- ・点字ブロック，多機能トイレ，スロープ，手すり等は安全で利用しやすく配備されている。
- ・ホーム上でベンチが置かれている所については，通路幅がより狭くなるため，車いすやベビーカー等の利用者に対して考慮が必要かと思う。

(事業者からの意見)

- ・駅の電光案内表示については，施工中であるが，4 箇国語対応とする。